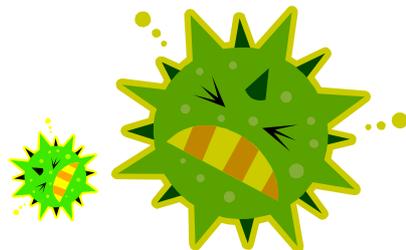


平成20年8月

かんせんしょう

京都市こどもの感染症

これから流行りそうなものは...



< 去年の今ごろ(8月)に多かった感染症 >

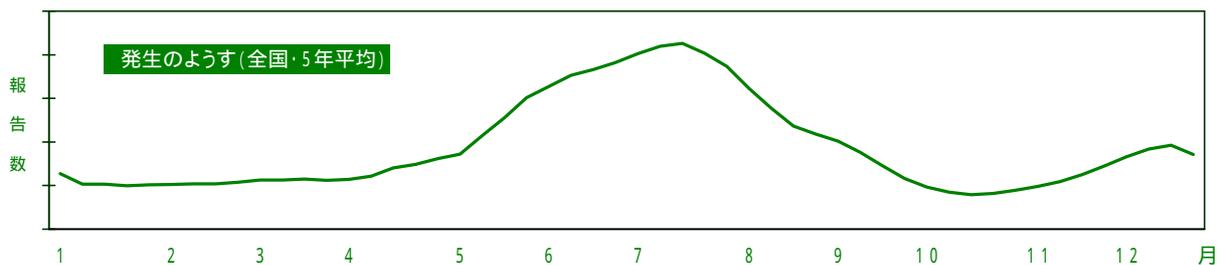
| 順位 | 病気の名前 | 特徴, 予防法など |
|----|---------|--|
| 1位 | 感染性胃腸炎 | 発熱, 下痢, 嘔吐などが症状です。予防は, 調理前, 食事前, トイレの後などの手洗いが基本となります。下痢や嘔吐が続くと脱水症になりやすいので, 水分補給をこまめに行いましょう。 |
| 2位 | ヘルパンギーナ | 夏かぜの一種で, 高熱とのどにできる水疱(すいほう)が特徴です。原因となるウイルスが何種類もあるため, 何回もかかってしまうことがあります。咳やくしゃみの他, ウイルスが付いた手を介しても感染するので, 予防には, 手洗いとうがいが必要です。 |
| 3位 | 突発性発しん | 「生まれてはじめての発熱」は, この突発性発しんが原因であることが多く, 生後4箇月から1歳くらいまでの子どもがよくかかります。突然, 高熱が出て, 数日間続き, 熱が下るとともに, 発しんが出ます。高熱のわりに, 元気なことが多いのですが, 熱性けいれんや脳炎を起こすこともあります。潜伏期間は約10日で, ワクチンもありません。 |

プール熱(咽頭結膜熱)に注意しましょう!

プール熱は, 「夏かぜ」と呼ばれるいくつかの感染症のうちの一つで, 正式な名称を「咽頭結膜熱」といいます。

その名のとおり, プールを介して広がることが多く, 幼児から小学生が, 多くかかります。

最近では, 温水プールがあるため, 一年を通して発生していますが, やはり夏場には報告数も増え, 8月以降もまだまだ注意が必要です。



主な症状

高熱が3~5日続き, のどの痛み(咽頭炎)や眼の充血(結膜炎)が現れます。

また, 乳幼児では, 嘔吐や下痢を伴うこともあります。

病気にかかってから, 症状が出てくるまでの「潜伏期間」は, 5~7日くらいです。

治療と予防

ワクチンや特効薬はありませんので, 安静にし, 特に水分補給を十分に行いましょう。

冷たい飲み物などは, のどの炎症部分を刺激して, 痛みが増しますので, 室温と同じ程度にします。

また, 発熱で暑がるような時には, エアコンなどで室温を調整し, わきの下や足の付け根を冷やしてあげるのもよいでしょう。

咽頭結膜熱を引き起こすウイルスは, 目やにや唾液, 便などに含まれていますので, 予防には, うがいと流水での手洗いが大切です。

特にプール前後のシャワーやうがいは十分に行い, タオルの共用も避けましょう。

気をつけたいこと

咽頭結膜熱を引き起こすウイルスは, 感染力が強く, 症状がなくなった後も, 人にうつしてしまう可能性があります。

このことから, 学校保健法では, 咽頭結膜熱は, 「主な症状がなくなってから, 2日間」が過ぎるまで, 登校できません。

きょうだい間でひろがることも多いので, 注意しましょう。



気になる症状があるときは, かかりつけの医療機関に相談しましょう!

発行/京都市保健福祉局
保健医療課, 衛生公害研究所
(ホームページにも掲載しています。)